

第 24 回知床五湖登録引率者審査部会議事概要

日時：平成 28 年 2 月 1 日（月） 13:30～17:00

場所：斜里町 知床世界遺産センター レクチャールーム

出席者：前田・永瀬（環境省）、茂木・玉置（斜里町）、代田（知床斜里町観光協会）、古坂（自然公園財団）、岡崎（ガイド協議会）、松田・岩山・笠井（引率者代表）、梅沢（ウトロ自治会）、寺山（エコツーリズム推進協議会）、秋葉・能勢・佐々木・片山（知床財団）

欠席者：梅島（北海道オホーツク総合振興局）

<概要>

知床五湖利用調整地区の運用開始から 5 年間の経過したことから、過去に実施したモニタリング結果をとりまとめ、ヒグマ活動期を中心に制度の評価と課題整理点を行った。出された課題点、改善点は事務局とりまとめの上、3 月上旬に開催予定の知床五湖の利用のあり方協議会に報告することとした。

また、平成 28 年度のヒグマ活動期の運用方法と登録引率者の養成カリキュラム、新規募集要項についてそれぞれ案が示され、了承された。

なお、議題（1）は他の議題を議論した後に議論された。

(1) 利用適正化計画（第 2 期）の点検について（●：主な意見 ✓：まとめ）

資料 1：知床五湖利用調整地区 5 年間の評価と課題整理（ヒグマ活動期）

知床五湖に利用調整地区を導入して 5 年、利用適正化計画を改定して 2 年が経過した。過去 5 年間に於いて実施した施策とその結果、課題や検討ポイントをモニタリングデータとともにとりまとめた。

利用機会について

- 過去 5 年間、ヒグマ活動期においては当日受付の開始、利用人数の増枠、小ループの運用開始など主に規制を緩和する方向で運用の改善を実施してきた。ヒグマ活動期におけるツアー参加者数は 2 倍以上に増加したが、来園者数の 9 割は高架木道のみの散策であることから、高架木道利用者の評価や満足度も重要といえる。（前田）
- 外国人のツアー参加者の割合が増加しており、全体の 2 割を占めている。現在のヒグマ活動期の仕組みにおいて、外国人利用者をどのように位置づけるかが課題。（前田）

利用期の設定について

- ヒグマの目撃件数と出没状況は、毎年変動する。年変動が激しい中で、今後の利用期の設定のあり方について議論が必要。五湖のみでなく公園全体の傾向や利用システムを考慮し利用期を設定する必要がある。（秋葉）
- ヒグマの出没状況については、平成 24 年に続き平成 27 年度も大量出没が発生している。翌シーズンの状況をあらかじめ予測することは難しく、柔軟な期間設定は困難である。（能勢）
- ツアー参加者の評価は高く、知床の魅力向上に繋がっている。ヒグマ活動期を延伸するという選択肢も考えられるが、仮に 8 月をヒグマ活動期とした場合、登録引率者として対応可能か確認したい。（代田）
- 引率者としては対応可能と考えるが、ツアー枠は不足し、予約が取れない利用者が発生する可能性が強い。また、五湖園地の滞在時間が延びることで渋滞が悪化する恐れがある。（松田・笠井・古坂）

- 8月をヒグマ活動期とした場合、遊歩道の利用者数は大幅に限定されることから、フレペの滝遊歩道等他の場所の利用が増加すると考えられる。情報提供の仕組みのない、自由利用エリアの利用が増加すれば、知床全体としてのヒグマのリスクは上昇する。（能勢）
- 利用期の設定については、利用者側や地域から未だに「分かりづらい」と言われている。シンプルになるのであれば変更した方がよい。具体的には、「植生保護期」と「ヒグマ活動期」の2期に集約する案が考えられる。開園からヒグマ活動期とする案も検討すべき。（松田）
- 全期間をヒグマ活動期もしくは植生保護期とする考え方もある。（笠井・寺山）
- ヒグマの活動状況のみを根拠にヒグマ活動期を設定することは難しい。利用機会の確保、地域の意向、現場のオペレーション等を考慮し設定する必要がある。（秋葉）
- ✓ 審査部会での議論内容についてとりまとめ、次回の協議会に報告。植生保護期の評価も含めて議論する。

利用者評価について

- 平成 22 年以降、アンケート調査を継続。ツアー参加者の認知度や評価は高い一方、高架木道利用者のそれは相対的に低い。高架木道利用者のアンケートは 2012 年以降実施されておらず、外国人利用者の意識調査も実施されておらず不明点も多い。（前田）
- ヒグマ活動期における来園者の 9 割は高架木道のみの利用であり、この層の満足度や評価を注視する必要がある。（秋葉）
- 将来的に高架木道の満足度を上げるなら、高架木道のガイドも検討してはどうか（岡崎）。

安全対策について

- ヒグマに関する重大なトラブルは発生しておらず、安全対策に一定の役割を果たしたと評価できる。一方、ツアー参加者の傷病等を原因としたトラブルは増加傾向であり、傷害保険の加入状況も引率者により対応が異なるなどの課題がある。（前田）
- 事故者の救援という点では、自分の引率している参加者の安全確保が第一であり、現場での援助はケースバイケースであるが、限界がある。（松田）
- 事故時のサポート体制については、大きなガイド事業所であれば可能だが、個人事業主は厳しい面があり、互助体制の確立が必要。（寺山）
- 外国人に関しては、コミュニケーションに時間がかかるため安全面に不安がある。ヒグマやキツネへの餌付けなどの問題も外国人が多い。ツアーに外国人専用枠を設けるとすることも考えられる。（松田・岡崎）
- ✓ ヒグマ遭遇時の対応や救援体制等、具体的な事例を想定したトレーニングが必要であり、事故時のシミュレーション等の研修を実施する。

登録引率者の養成と研修について

- 制度導入以降、毎年登録引率者の募集と養成研修を実施している。登録引率者の総数は微増傾向。年齢層は 40 代が中心。現在の研修はガイド能力や外国語等のスキルを養成するカリキュラムとはなっておらず、引率者の質を担保することは困難。（前田）
- 五湖のみの引率資格というだけではなく、知床全体でガイドのあり方を考えたい。地域戦略的なものとリンクさせて、知床全体でガイドの機会を提供していければよい。（寺山・秋葉）
- 新規引率者が増えることにより、安全面での問題が発生することは避けたい。人数を単に増やすの

でなく、質の向上を目指す必要がある。引率者としての技術向上のためには場数を踏むことが重要。
（松田）

自然環境の保全について

- 2年間の植生調査を行った結果、ほとんどの調査区に変化は見られなかった。一部に植生の後退が疑われる調査区もあった。
- ✓ 今後もモニタリングを継続し、後退が疑われる箇所については注視する。

(2) 平成 28 年度のヒグマ活動期の運用方法について（●：主な意見 ✓：まとめ）

資料 2-1：平成 28 年度ヒグマ活動期の運用について（案）

資料 2-2：小ループ・当日受付事業の実施計画

資料 2-3：ヒグマ事故等リスクマニュアルの改訂について

平成 28 年度のヒグマ活動期の運用について、方針の確認を行った。

- ツアー申込については事前予約制を原則とし、当日受付はあくまで補足的な位置付けとする。小ループツアーの料金設定に関しては、ガイド協議会で議論の上決定する。（笠井）
- 傷害保険は本来、ツアー参加者が負担すべき。ツアーの情報に保険の扱いを明示するのがよい。（岡崎）
- 傷害保険の加入状況のアンケート結果を見ても、多くの登録引率者は自主的に加入している。義務化することで安全度が上がるのではないか。小ループツアーにおいては、ガイド協議会名義での加入も検討している。（笠井）
- ✓ 平成 28 年度のツアースケジュールは昨年度と同様とする。
- ✓ リスクマニュアルについて改訂版を作成する。傷害保険の取り扱いに関しては、引率者の登録要件として義務化を検討する。

(3) 平成 28 年度の登録引率者新規養成について（●：主な意見 ✓：まとめ）

資料 3-1：登録引率者の募集と養成研修のあり方について

資料 3-2：平成 28 年度登録引率者新規養成カリキュラム（案）

資料 3-3：平成 28 年度登録引率者新規養成募集要項（案）

資料 3-4：平成 28 年度登録引率者新規養成研修実施要綱（案）

登録引率者の募集と養成研修の実施方針について確認。平成 28 年度登録引率者新規養成カリキュラム、募集要項、研修内容については大きな変更は無し。基本的な進め方とスケジュールの確認を行った。

登録引率者の募集と養成研修のあり方について

- 養成研修の日程については、応募者が多くなると調整が難しい為、日程を事前に決定した後募集したい。（前田）
- ✓ 平成 28 年度については、引き続き新規養成者を積極的に募集する。
- ✓ 外国語研修や救命救急講習会等の自主的な研修機会を検討する。
- ✓ 特に新規養成者等ガイド歴の浅い引率者に対し、ヒグマ遭遇ケーススタディミーティングやその他の研修機会を通して、ヒグマとの距離感や遭遇時の危機感について認識の共有化を図る。

(4) 平成 28 年度の既存の登録引率者研修について (●：主な意見 ✓：まとめ)

資料 4-1：平成 28 年度既存登録引率者研修カリキュラム（案）

資料 4-2：知床五湖登録引率者養成・登録・更新のフロー（案）

既存登録引率者に対し、制度等の確認や引率者個人のスキル及び制度のレベルアップを図るため、シーズン前・シーズン中・シーズン後等に、ルールの確認やケーススタディミーティング等の研修を行うことを確認した。

- 既存登録引率者向けのカリキュラムについては、シーズン前研修として事故発生シミュレーションを追加した。実際に五湖の機材を使用し、消防等専門の方を呼び講習したい。(前田)
- 地理的感覚の習得を目的として五湖の遊歩道外を踏査する任意の研修を秋に行いたい。(前田)
- スキルアップ研修については、11 月以降の静かな時期に行ってもよいのでは。(寺山)
- ✓ スキルアップ研修は任意とし、実施日は 11 月 10 日（木）を予定。詳細は事務局で詰める。

(5) 知床五湖登録引率者審査部会の平成 27 年度会計報告について (●：主な意見 ✓：まとめ)

資料 5：知床五湖登録引率者審査部会の平成 27 年度会計報告

審査部会会計について、監査結果と併せて報告。

(6) その他

特になし。

次回・今後の予定

3 月実施予定の知床五湖の利用のあり方協議会（第 34 回）にて今回の協議内容の報告を予定。